

千代田図書館と神保町古書店の連携展示

としょかんのこしょてん VOL. 93

茶室の起こし絵図 ～江戸時代の大工が使った立体図面～

千代田図書館内の一角に設けられた、神田古書店連盟との連携展示・出張古書店コーナー「としょかんのこしょてん VOL.93」のご案内です。

今回は、「茶室の起こし絵図 ～江戸時代の大工が使った立体図面～」と題し、千利休や今井宗久などの茶人が考案した、茶室(数寄屋)の起こし絵図を組み立てて展示するとともに、平面図(大工雛型)と、北斎・二代目広重による江戸時代の町や村を描いた浮世絵などを展示しています。ぜひご覧ください。

※「としょかんのこしょてん」は、担当古書店の方が、自店の商品をもとに、展示タイトルや内容、キャプションなどを考えたコーナーで、古書店の商品をあるテーマに沿って見られる貴重な機会です。

としょかんのこしょてん VOL.93

茶室の起こし絵図 ～江戸時代の大工が使った立体図面～

【会期】2017年11月15日(水)～2018年1月16日(火)

【場所】千代田図書館9階＝出張古書店コーナー「としょかんのこしょてん」

【担当】明倫館書店／理工学書専門

江戸時代の大工職人は花形職業の一つで、その水準の高さは みなさんご存じの通りです。その一方、明治期以前の日本人は、遠近法の処理が未熟で、大工雛形の図版をみると少し違和感があるのも事実です。

起こし絵図は建築模型でもあり、立体の建築図面でもあります。この絵図が茶室に多い理由は、施主である茶匠が、遠近法の未熟な平面の建築図面を見ても理解できず、説明するために立体にして見せる必要があったと考えられます。

今回は、千利休や今井宗久などの茶人が考案した、茶室(数寄屋)の起こし絵図を組み立てて展示するとともに、平面図(大工雛型)と、北斎・二代目広重による江戸時代の町や村を描いた浮世絵を紹介いたします。

次ページに出品リストあり

<出品リスト> ※出品リストは予告なく変更することがあります。

資料名
数寄屋起こし絵図より 利休 四畳半
数寄屋起こし絵図より 宗旦 今日庵
数寄屋起こし絵図より 不白 一畳半
数寄屋起こし絵図より 原叟 腰掛待合
数寄屋起こし絵図より 今井宗久 二畳半
数寄屋起こし絵図より 尾形光琳 三畳半
[平面図] 当世初心雛形 江戸後期(嘉永4年:1851年)の明治19年翻刻版
[浮世絵] 二代広重 名所江戸百景 赤坂桐畑雨中夕けい
[浮世絵] 北斎 富嶽三十六景 登戸浦(複製)

本件お問合せ先：千代田区立図書館 広報室 坂巻 電話 03-5211-4288～4290(千代田図書館)
一般お問合せ先：千代田図書館 千代田区九段南1-2-1千代田区役所9・10階 電話03-5211-4289・4290